

ブルンジ月報（２０２５年２月）

※以下は、ブルンジ主要メディア（RTNB、IWACU等）の記事取りまとめ。

1. 政治・外交

- 4日、ンダイシミア大統領夫妻は訪米し、ワシントンで行われた民間企業主催の朝食会に出席した。同朝食会は米の民間企業が主催したもの。
- 8日、コンゴ（民）東部情勢について議論する東アフリカ共同体（EAC）・南部アフリカ開発共同体（SADC）合同臨時首脳会合がタンザニアで開催され、ンディラコブチャ首相が出席した。
- 16日、ンダイシミア大統領はアディスアベバで開催されたAU首脳会合に出席。コンゴ（民）東部情勢について、武装勢力の即時停戦やM23等への対話の呼び掛け、コンゴ（民）領土内で活動する「招かれざる勢力」の撤退を中心とした和平案を提案した。

2. 開発協力

- 18日、森口書記官はギテガにて、令和3年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「村落地域の若者のための職業訓練センター建設計画」の引渡式に出席した。本案件はブルンジ国民の約9割が従事する農業分野での職業訓練を若者に提供するもの。
- 18日、森口書記官はブジュンブラにて、柔道着等の引渡式に出席した。同寄贈は令和5年度スポーツ外交推進事業で実現したもので、ブルンジ柔道連盟事務局長は本支援への感謝を述べ、本支援によってブルンジの若手柔道家が競技を断念することなく、練習を継続できることを強調した。
- 19日、シンギロ外相は福島大使との間で「食糧援助」及び「精米施設における機材供与計画」のEN署名を行った。シンギロ外相は「日本は多分野かつバイ・マルチ両方の文脈で継続的にブルンジの発展に貢献しており、本支援にも改めて感謝申し上げたい」と述べた。
- 19日、シンギロ外相はベルギー外務省開発協力・人道援助局長補との間で、2024年～2028年の4年間で総額7千5百万ユーロの経済協力協定に署名した。

3. 経済

- 1月末のコンゴ（民）東部情勢悪化により、ブルンジ・コンゴ（民）国境付近の越境商売も打撃を受けており、治安の悪化により、コンゴ（民）側での商売ができなくなったブルンジ人商人もいる。

以上